

## 平成30年度決算の概要

## 1. 概要

「改革プラン(2017)」の2年目となる平成30年度は、医療機能向上と機能分化・連携を進め、地域に必要な医療の継続を図りながら、更なる経営改善の取り組みを進めた。

豊岡病院では、退院支援病棟の導入(H30.3)や長年の課題だった地域医療支援病院への承認(H30.8)を果たし、日高医療センターでは当組合初となる訪問看護ステーションを開設(H30.4)し、在宅医療支援機能の強化を図った。また、朝来医療センターでは地元出身医師の確保と前年度に導入した地域包括ケア病床の更なる有効活用に取り組んだ。

収益的収支は、経常収支で77百万円改善したが、旧和田山医療センター跡地処分による特別損失計上等により純損益は160百万円悪化し1,254百万円の赤字となった。また、年度末内部留保資金は、前年度より168百万円減少し154百万円となり厳しい資金状況が続いている。

## 2. 収益的収支

## (1) 事業合計

(対H29決算)

① 医業収支	△ 7 9 百万円
ア. 日高医療センター1病棟化による改善効果の平年度化	+ 1 5 0 百万円
イ. 朝来医療センターの地域包括ケア病床導入等による収益増	+ 1 2 0 百万円
ウ. 豊岡病院の入院患者減に伴う入院収益減	△ 9 7 百万円
エ. 医療機器保守や医事委託等の経費増	△ 5 1 百万円
オ. H29年度医療機器更新等の増加に伴う減価償却費増	△ 1 8 6 百万円
② 医業外収支	+ 1 5 6 百万円
ア. 構成市分賦金の増等に伴う負担金・資本費繰入収益の増	+ 6 2 百万円
イ. 制度改正により過去の退職金の費用化処理終了	+ 9 6 百万円
③ 経常収支(①+②)	+ 7 7 百万円
④ 特別収支・介護収支	△ 2 3 7 百万円
ア. 旧和田山医療センター解体工事実施に伴う損失計上	△ 2 1 2 百万円
イ. 訪問看護S Tひだか開設初年度赤字の計上	△ 2 3 百万円

(税込、単位:百万円)

区 分	H29決算 (a)	H30現計 (b)	H30決算 (c)	対H29決算 (c)-(a)	主な病院別増減内訳	対H30現計 (c)-(b)
医業収益	17,145	17,714	17,409	264	-	△ 305
入院収益	11,338	11,650	11,330	△ 8	豊岡△140, 日高+47, 朝来+114	△ 320
外来収益	5,233	5,527	5,548	315	豊岡+235, 日高+47, 朝来+28	21
その他	574	537	531	△ 43	豊岡△23, 日高△17	△ 6
医業費用	20,812	21,444	21,155	343	-	△ 289
給与費	11,183	11,229	11,134	△ 49	豊岡+90, 日高△150, 朝来+19	△ 95
材料費	4,901	5,183	5,054	153	豊岡+97, 日高+45	△ 129
経費	2,786	2,883	2,837	51	豊岡+58, 出石△8	△ 46
減価償却費	1,723	1,909	1,909	186	豊岡+219, 朝来△33	0
その他	219	240	221	2		△ 19
医業収支(A)	△ 3,667	△ 3,730	△ 3,746	△ 79	豊岡△399, 日高+184, 朝来+139	△ 16
医業外収益	3,247	3,322	3,299	52		△ 23
構成市分賦金	2,593	2,667	2,667	74	豊岡△67, 朝来+142	0
医業外費用	683	569	579	△ 104	豊岡△47, 日高△34, 朝来△22	10
医業外収支(B)	2,564	2,753	2,720	156	-	△ 33
経常収支(A)+(B)	△ 1,103	△ 977	△ 1,026	77	豊岡△426, 日高+219, 朝来+293	△ 49
特別収支(C)	9	△ 236	△ 205	△ 214	朝来△212	31
介護収支(D)	0	△ 20	△ 23	△ 23	日高△23	△ 3
純損益(A)+(B)+(C)+(D)	△ 1,094	△ 1,233	△ 1,254	△ 160	豊岡△428, 日高+196, 出石△8, 朝来+81	△ 21

(2) 病院別の詳細

① 豊岡病院（経常収支△153百万円⇒△579百万円）

（対H29決算）

ア. 医業収支	△399百万円
（i）高額薬品使用患者の増加等による外来収益増	+94百万円
（ii）上期入院患者数の減(△22人/日)による入院収益減	△97百万円
（iii）出張診療医師等の増や人勧プラス改定による給与費増	△90百万円
（iv）医療機器保守や医事委託等の経費増	△58百万円
（v）H29年度医療機器更新等の増加に伴う減価償却費増	△218百万円
イ. 医業外収支	△27百万円
（i）制度改正により過去の退職金の費用化処理終了	+41百万円
（ii）構成市分賦金の減に伴う負担金・資本費繰入収益の減	△67百万円
ウ. 経常収支(ア+イ)	△426百万円

（税込、単位：百万円）

項目		H29決算	H30現計	H30決算	対H29決算	対H30現計
業務量	1日当入院患者数(人)	460	443	438	△22	△5
	入院単価(円)	57,687	60,466	59,633	1,946	△833
	入院収益	9,680	9,785	9,540	△140	△245
	1日当外来患者数(人)	980	964	962	△18	△2
	外来単価(円)	15,128	16,307	16,408	1,280	101
	外来収益	3,618	3,835	3,853	235	18
収益的収支	医業収益	13,692	13,996	13,764	72	△232
	医業費用	15,824	16,528	16,295	471	△233
	医業収支(A)	△2,132	△2,532	△2,531	△399	1
	医業外収益	2,448	2,381	2,374	△74	△7
	医業外費用	469	411	422	△47	11
	医業外収支(B)	1,979	1,970	1,952	△27	△18
	経常収支(A)+(B)	△153	△562	△579	△426	△17
	特別収支(C)	1	0	△1	△2	△1
純損益(A)+(B)+(C)	△152	△562	△580	△428	△18	

② 日高医療センター（経常収支△324百万円⇒△105百万円）

（対H29決算）

ア. 医業収支	+184百万円
（i）眼科患者数増加に伴う入院・外来収益の増	+49百万円
（ii）1病棟化(H29.9)による改善効果の平年度化(給与費減)	+150百万円
イ. 医業外収支	+35百万円
（i）制度改正により過去の退職金の費用化処理終了	+32百万円
ウ. 経常収支(ア+イ)	+219百万円
エ. 介護収支	△23百万円
訪問看護S Tひだか開設初年度赤字の計上	

（税込、単位：百万円）

項目		H29決算	H30現計	H30決算	対H29決算	対H30現計
業務量	1日当入院患者数(人)	25	27	26	1	△1
	入院単価(円)	43,098	45,329	46,428	3,330	1,099
	入院収益	394	445	441	47	△4
	1日当外来患者数(人)	275	275	274	△1	△1
	外来単価(円)	15,828	16,608	16,577	749	△31
	外来収益	1,062	1,114	1,109	47	△5
収益的収支	医業収益	1,539	1,627	1,616	77	△11
	医業費用	2,009	1,914	1,902	△107	△12
	医業収支(A)	△470	△287	△286	184	1
	医業外収益	232	233	233	1	0
	医業外費用	86	53	52	△34	△1
	医業外収支(B)	146	180	181	35	1
	経常収支(A)+(B)	△324	△107	△105	219	2
	特別収支(C)	0	0	0	0	0
介護収支(D)	0	△20	△23	△23	△3	
純損益(A)+(B)+(C)+(D)	△324	△127	△128	196	△1	

③ 出石医療センター（経常収支+9百万円⇒+1百万円）（対H29決算）

ア. 医業収支	△ 3 百万円
(i) 給与費・修繕費等の費用減	+ 1 8 百万円
(ii) 内科入院患者数の減(△2人)による医業収益減	△ 2 1 百万円
イ. 医業外収支	△ 5 百万円
(i) 企業債支払利息の減	+ 2 百万円
(ii) 構成市分賦金の減(不採算地区病院運営経費等)	△ 8 百万円
ウ. 経常収支 (ア+イ)	△ 8 百万円

(税込、単位:百万円)

項目		H29決算	H30現計	H30決算	対H29決算	対H30現計
業務量	1日当入院患者数(人)	33	32	30	△3	△2
	入院単価(円)	27,381	27,718	27,506	125	△212
	入院収益	329	319	300	△29	△19
	1日当外来患者数(人)	70	69	70	0	1
	外来単価(円)	7,915	8,211	8,241	326	30
	外来収益	135	139	140	5	1
収益的収支	医業収益	502	495	476	△26	△19
	医業費用	725	717	702	△23	△15
	医業収支(A)	△223	△222	△226	△3	△4
	医業外収益	260	253	253	△7	0
	医業外費用	28	27	26	△2	△1
	医業外収支(B)	232	226	227	△5	1
	経常収支(A)+(B)	9	4	1	△8	△3
	特別収支(C)	0	0	0	0	0
	純損益(A)+(B)+(C)	9	4	1	△8	△3

④ 朝来医療センター（経常収支△636百万円⇒△343百万円）（対H29決算）

ア. 医業収支	+ 1 3 9 百万円
(i) 職員数増(医師等)に伴う給与費増	△ 1 9 百万円
(ii) 地域包括ケア病床の平年度化と増床及び医師増	+ 1 2 0 百万円
(iii) 減価償却費の減	+ 3 3 百万円
イ. 医業外収支	+ 1 5 4 百万円
(i) 新病院整備に係る構成市分賦金の増等	+ 1 3 5 百万円
(ii) 退職金の費用化処理終了に伴う繰延勘定償却の減等	+ 2 3 百万円
ウ. 経常収支 (ア+イ)	+ 2 9 3 百万円
エ. 特別収支	△ 2 1 2 百万円
(i) 旧和田山医療センター解体工事実施に伴う損失計上	△ 2 1 2 百万円

(税込、単位:百万円)

項目		H29決算	H30現計	H30決算	対H29決算	対H30現計
業務量	1日当入院患者数(人)	91	100	96	5	△4
	入院単価(円)	28,121	30,123	29,862	1,741	△261
	入院収益	935	1,101	1,049	114	△52
	1日当外来患者数(人)	242	252	253	11	1
	外来単価(円)	7,067	7,136	7,231	164	95
	外来収益	418	439	446	28	7
収益的収支	医業収益	1,412	1,597	1,553	141	△44
	医業費用	2,254	2,285	2,256	2	△29
	医業収支(A)	△842	△688	△703	139	△15
	医業外収益	307	455	439	132	△16
	医業外費用	101	79	79	△22	0
	医業外収支(B)	206	376	360	154	△16
	経常収支(A)+(B)	△636	△312	△343	293	△31
	特別収支(C)	8	△236	△204	△212	32
	純損益(A)+(B)+(C)	△628	△548	△547	81	1

### 3. 資本的収支

(1) 資本的支出 (4,003百万円⇒2,556百万円)	(H30決算額)
① 建設改良費 (2,242百万円⇒757百万円)	
ア. 主な施設整備事業	82百万円
(i) 豊岡病院	照明LED化、医師官舎屋根改修等 49百万円
(ii) 日高医療センター	病院建物の耐震改修整備 31百万円
	(H30・H31年度の継続事業の1年目、総額272百万円)
イ. 主な医療器械整備事業	675百万円
(i) 豊岡病院	アンギオ装置、X線テレビ装置等 549百万円
(ii) 日高医療センター	手術顕微鏡、自動視野計等 68百万円
(iii) 出石医療センター	検査機器システム等 38百万円
(iv) 朝来医療センター	大腸ビデオスコープ等 20百万円
② 償還金 (1,637百万円⇒1,704百万円)	1,704百万円
(2) 資本的収入 (3,246百万円⇒1,832百万円)	(H30決算額)
① 企業債 (2,227百万円⇒724百万円)	建設改良事業の減に伴う減 724百万円
② 負担金 (900百万円⇒1,013百万円)	償還金の増に伴う負担金の増 1,013百万円
(3) 収支不足額	
収支不足額724百万円は内部留保資金等で補てんする。	

(税込、単位:百万円)

	H29決算	H30決算	増減	主な内容
資本的収入(A)	3,246	1,832	△ 1,414	-
企業債	2,227	724	△ 1,503	建設改良事業の整備財源
負担金	900	1,013	113	条例に基づく構成市負担金
他会計長期借入金	53	30	△ 23	医師修学資金貸付金に係る財源
補助金	30	37	7	救急・精神に対する県補助金
投資回収金	20	23	3	修学資金貸付金の返済
固定資産売却代金	16	5	△ 11	固定資産売却に伴う収入
資本的支出(B)	4,003	2,556	△ 1,447	-
建設改良費	2,242	757	△ 1,485	施設及び医療器械整備費
償還金	1,637	1,704	67	借入済企業債の返済
その他	124	95	△ 29	修学資金等の貸付金
収支不足額(A)-(B)	△ 757	△ 724	33	-

### 4. 年度末内部留保資金

#### (1) 平成30年度末内部留保資金の状況

収益的収支の改善及び資本的収支における資金不足額の抑制等により、内部留保資金は168百万円の減少にとどめ、年度末残高154百万円を確保し、資金不足を回避した。しかし、この残高は準用再建団体であった昭和51年以降最低の水準であり、非常に厳しい経営状況が継続している。

(単位:百万円)

	H29決算	H30決算	増減
①前年度末内部留保資金	798	322	△ 476
②当該年度変動額	△ 476	△ 168	308
ア. 収益的収支による増減	281	556	275
(1) 純損益	△ 1,094	△ 1,254	△ 160
(2) 資金変動を伴わない費用	1,375	1,810	435
イ. 資本的収支による増減	△ 757	△ 724	33
③当該年度末内部留保資金	322	154	△ 168

#### (2) 年度末内部留保資金の推移

(単位:百万円)

年度	H26	H27	H28	H29	H30決算	R1当初
年度末内部留保資金	1,423	1,450	798	322	154	70

(3) 全国病院事業における資金不足団体の状況

	H27	H28	H29
全団体数(A)	598	585	578
資金不足団体数(B)	23	33	61
都道府県	1	1	2
市町村	19	27	51
一部事務組合	3	5	8
資金不足団体の割合 (B)/(A)	3.8%	5.6%	10.6%

5. 今後の経営改善方策について

(1) 新公立豊岡病院組合改革プラン

公立豊岡病院組合は、平成29年3月に策定した「新公立豊岡病院組合改革プラン(2017)」において次の目標値を定めて経営している。

- ① 退職手当引当金を除く経常収支の均衡(当該引当金含む経常収支は△170百万円)  
 ※ 退職手当引当金・・・ H26制度改正から計上が義務化された退職手当相当額。  
 改正以前発生分は15年間の均等計上が可能。資金支出は無い。
- ② 内部留保資金の確保(各年度末にマイナスを発生させない)

(2) プラン目標値比較と今後の改善方策

① プラン目標値比較(事業合計)

(単位:百万円)

		H29	H30	R1当初	R2目標
経常収支 (退手引当含む)	目標値	△ 1,044	△ 799	△ 480	△ 170
	実績/見込値	△ 1,103	△ 1,026	見込 △ 289	
年度末 内部留保資金	目標値	340	347	45	204
	実績/見込値	322	154	見込 70	

⇒ **経常収支の要改善額** : **119百万円**  
 (R2計画値△170百万円－R1見込値△289百万円)

② 今後の経営改善方策

- ア. R1当初予算に掲げた取り組みの着実な実行
- イ. R2目標に向けた改善方策の検討

(単位:百万円)

	R2目標	R1当初	要改善額	今後の改善方策
豊岡病院	85	△ 53	138	・効率的な病床管理による入院患者数の確保 ・新たな施設基準取得による単価増
日高MC	△ 164	△ 18	△ 146	・保守や委託内容等費用の見直し
出石MC	83	51	32	・地域包括ケア病床の効率的運用 ・訪問診療の検討
朝来MC	△ 174	△ 269	95	・県養成医師確保に伴う患者数確保(H32～)
事業合計	△ 170	△ 289	119	—